

# 十時 裕さんの講義に関するレポート

2006/01/30 提出

グループH 大庭慶義 吉田直弘  
田中えみ 柴田勇生  
小宮麗加 横山あい  
清本真二

## 十時 裕 Hiroshi Totoki 略歴

昭和27年 福岡県生まれ  
昭和52年 福岡大学建築学科卒業  
昭和54年 米国ミネソタ州立 St.Cloud Uni. 都市社会工学科卒業  
昭和56年 (株)アーバンデザインコンサルタント入社  
昭和63年 (株)アーバンデザインコンサルタント福岡事務所所長  
現在 同社取締役 営業部長

## プロフィール

市民主体のまちづくりを米国で学び帰国後、福岡を拠点に都市計画、まちづくりに携わり、関わった自治体は200を超える。特に都市景観行政では九州の先駆的な取り組みとなった熊本県、福岡県をはじめ、北九州市、福岡市、熊本市、長崎市等の景観条例の制定運用に携わった。最近では、地方分権、住民主体のまちづくりの社会的動向による市民参加、参画の計画策定、活動支援の専門家としてワークショップを活用した楽しく学び実行していく実践的なまちづくりを指導、展開している。

これまでかかわった事業は、総合計画策定から、公園設計、区画整理と多岐にわたり、その間500以上のワークショップの企画・運営に携わり、行政と市民とのよりよい関係を持ったまちづくりに奔走している。

現在、年間100を越えるワークショップ、講演、研修を実施するかたわら、地元福岡でも自ら自治会長を務め、住民自治をテーマにしたコミュニティデザインを提案する活動を行っている。

## 主な活動

- ・ 福岡県まちづくり専門家 (平成8年～現在)
- ・ 福岡県地域づくりアドバイザー (平成14年)
- ・ 福岡県美しいまちづくり条例策定委員 (平成12年)

- ・ 福岡県都市計画道路検証委員会委員 (平成16年)
- ・ 長崎市まちづくり専門家育成講師 (平成13年)
- ・ 福岡市地域アドバイザー (平成16年)
- ・ 大宰府市景観委員会委員 (平成17年)

### 主な実績

- ・ 春日市・大野城市都市計画マスタープラン策定 (平成11, 12, 13年)
- ・ 太宰府市都市景観・緑の基本計画策定 (平成11, 12, 13年)
- ・ 福岡市地域目標づくりモデル事業 (早良区他4区) (平成15, 16年)
- ・ 大川市中心市街地活性化基本計画及び都市再生モデル事業 (平成12年)
- ・ 春日市30周年記念事業、市民アドバイザー (平成14年)
- ・ 北九州市学術研究都市まちづくり検討 (平成13年～)
- ・ 福岡市城南区樋井川発・まちづくり実践ワークショップ (平成15年)
- ・ 福岡市緑のボランティア養成講座 (平成12年～16年)
- ・ 福岡市緑のコーディネーター養成講座 (平成16年)
- ・ 志摩町田園居住のまちづくり (志摩町4地区) (平成16年)

### ◇十時さんの話より

現在に至るまで

福岡大学卒業をしているが、建築にセンスがない、デザインに興味がない。しかし、社会学には興味があって、学校に学部変更を願い出たが拒否された。しぶしぶ建築4年を経て卒業。福岡大学を出ただけでは仕方がない。何か力を付けなくてはとアメリカへ。卒業してアメリカに行くまで、こっそり九大の心理学の講義を受けていた。が、これが面白い。

アメリカでは最初の1年間毎日10時間くらい勉強した。おかげで半月くらいで大学4年分の勉強をした。それくらい社会学は面白かった。

アメリカには地域デザインという言葉があった。日本は30年、町作りが遅れている。建築のバックグラウンドがある人間が建築だけでなく生きていける道がアメリカにはあった。

日本に帰ってきたが、町作りが日本にはまだ無かった。職がなかったので建設デザイン、区画整理などのハード系の仕事を2年間やった。その後、黒川紀章さんがつくったアーバンデザインという会社ができ、これが私の生きる道だということで入社。

## ◇十時さんの信念

最近は行政の仕事がほとんど。

デザインは行政やデザイナーが作る物ではなく、住民と一緒に作るものだ。

住民参加を信念の基に活動をしている。

都市計画とは、地域の動きを社会に反映させている、いわゆる社会デザイン。

今、地震後の人々の動きを見て、コミュニティーデザインを行っている。

人とどうコミュニケーションを取っていくか、仲間をつくれるか、デザイン、建築の力がなくても、出来る人を動かせばよい。

**都市計画**はどのくらいの人口が張り付いて、どのような施設を配分するかを法律で決める計画。

**町作り**は反対に地域がどのような暮らしをしたいか、人々のニーズをまとめる。

**景観**において「景」とは構造のことをいい、家が何%・店が何%といった要素のことを示す。また、「観」とは人によって見え方の良し悪しが分かれるということを示している。

## ◇五木村のまちづくり

新しい五木村をつくるうえで、旧五木村の不便さから人々は都会的な碁盤目状の景観を提案した。だが、細川さんは旧五木村の景観を残したいと主張した。そうして、2年の月日を経て勾配屋根・黒い瓦・木と自然色を使用したカラーコントロールといったルールを決めることで双方が納得した。

## ◇北九州市学術研究都市まちづくり

ここでは、住んでいる人や開発業者と話し合い景観やまちの質を高めるためのルールをつくった。ブロックの高さや生垣をCGでシュミレーションして決定した。こうして、ブロックは60センチ以下としコンクリートを避けた。さらにブロックにつけるフェンスを透過性のあるものにして、植栽を植えることとなった。

## ◇大牟田市の都市計画マスタープラン

まちづくりは10年単位で行われると言われており、大牟田市の都市計画では20年で計画されている。その実現化をめざし、土地利用や道路・公園整備等の方針をとりまとめ、今後、市が行う都市計画の基本的な指針となる。このとき、住民に考えてもらうワークショップという手法を用いた。計4回それぞれ違うテーマ（気づく・描く・確かめる・探る）で話し合う。人々は公募で行われ1～2回は行政の人たちも加わった。ここではまず、参加者がグループに分かれて魅力や問題点について話し合い、課題をはっき

りさせた。このとき、どこをどうつなげば美しくなるか？緑をどう守るか？といったことが議題になった。このようにして、全体の施設配置を決めた後高さや用途によって土地利用を決定した。このとき、全体をまとめることを都市計画という。

### ◇住吉公園の改修 プランワークショップ

都市計画における公園・道路の設計では、行政がつくったものを住民に提供するのではなく住民と共に設計の段階から一緒に考える。そのことで、愛着を持てるのである。この住吉公園の改修をするときはまず、公園の現状を知るために子供から年配の方々まで実際に行って観察する。そのことによって、1年を通して公園で何をしたいかなどのアイデアを出し合う。そのアイデアをまとめて、それをもとに専門家が方位など周辺の環境を考慮に入れた上でプランニングをする。その際、十時さんのような方は道路設計の図面や造園の植物の種類、建築に関する法律など様々のことについて知っておかなくてはプランニングをすることは出来ない。最後に住民みんなでできることとして、維持・管理について話し合う。このように4回の話し合いの結果公園を設計していくのである。

### ◇旧冷泉小学校跡地利用検討 ワークショップ

ワークショップで大事なことは個人が好きなことと言わないこと。その敷地の魅力や今までであった小学校の思いなど地域の価値観を確かめていく作業をする。具体的に何を置きたいか決まるとそれ相応のブロックを使って敷地にきちんと入るか、配置はどこにするかなど空間の取り方を詰めていく。そしてあるといいなではなくあるべきだというものを残し、専門家が比較、検討する。最終的に2案ほどに絞り、10年後、20年後の時間の経過とともにその町がどのように変わっていくかを踏まえて、どちらが好ましいか決断する。

### ◇検早良区田隈小学校空き教室利用討 ワークショップ

4回に分けて、次のことを話し合う。

- 1回目 空き教室の利用方法
- 2回目 空き教室の新しい間取りの検討
- 3回目 空き教室の改修状況と備品の点検
- 4回目 運営と管理の方法

大事なのはどのように利用するかで予算がどれくらいになるのかを検討し、皆に知らせること。誰が維持管理をするかも決めておく。

## ◇市民参加のまちづくり（ワークショップのポイント）

従来…会議型

今回…ワークショップ型（参加型）

ワークショップのない会議は誰か一人が決めるため建物が出来るまでは早いですが、反対に失うものが多い。一番がコミュニティー、人間関係が崩れる。どうせ作るなら話し合おう…そうすれば反対意見は無くなり建物にも愛着が持てる。そのためには話し合いの場を設け、話しやすい環境を作る。十時さんは年間150もの話し合いの場に顔を出している。

ワークショップ5つの‘合う’

- 知り合う
- 語り合う
- 認め合う
- 折り合う
- 寄り合う

できるだけ多くの人たちが話し合い、皆で力を合わせてすることが大事。

**時間と空間と人間**を3つの輪といい、町づくりは時間、空間、人間を考えなくてはダメ。

どれかひとつでも欠けてはいけないのである。

デザインをやるときには、それがいつまで続くのか、町のひとたちにどういふ影響を与えるのか、どういふ人たちに愛されるかを考えてやっていって欲しい。

## ◇香住丘校区まちづくり計画

よりよい香住丘にするには？

↓

ワークショップでみんなで話し合う

「地域のありたい姿=目標」

「その実現に向けて=活動」

↓

みんなで取り組みを実践

ワークショップの流れ

- 第一回 「現状を知る」・・・校区の魅力と問題を知る
- 第二回 「想いを語る」・・・ありたい姿か（目標）を語る
- 第三回 「活動を探る」・・・目標実現に向けた活動を探る
- 第四回 「実行を考える」・・・重点プロジェクトを絞り込む

## ◇十時さんに学生から質問

人の意見をまとめるのに苦労はあると思いますが、何か工夫は。

まとめると思わず、みんな同じ価値観があるからそこで暮らしているわけだから、同じ部分を引き出す。

まとめるのは大変。解決策を見つけると思えばよい。一緒に作る雰囲気を作る。時間をかけて共通の価値観を見いだす。

アメリカに残って仕事をしていこうとおもわれなかったのか。

アメリカとは文化が違う。勉強の仕方はアメリカで得たのだから、それを日本に帰ってきて役立てた。

今は自治会長をおこなっている。自分の住むところを計画するのが夢だった。

自分の限界を知るには日本にいてはだめ。一流になるには限界に挑戦すべき。どんな一流も並はずれた努力をしている。

## ◇講義についての感想

海外の大学で学び日本に帰ってきてても、その学んだことについての仕事ですぐにはなかったという話を聞き建築においても日本とアメリカなどでは取り組みに大きな差が生じており、日本で近年行われている計画も海外では何年も前から行われていたということを知りました。

また、都市計画については今までことばを聞く機会は多かったけれど、あまりよくわかってはいなかったので、「デザイナーがつくるのではなく住民がつくる」という話を聞き、実際に話し合っているスライドをみたときには、専門家たちが集まって計画するのだと思っていた考えが変わり、住民たちが話し合いまとめた意見こそが本当にその地域に求められていることだと知り、その話し合いにも順序というものがあるということを知ることができました。

今回の講義で「一流になるには限界に挑戦すべき。どんな一流も並はずれた努力をしている。」といわれたように建築を学んでいく上では大変なことが多くあるのが当たり前であり、自分や専門家の考えだけでなく、住民など多くの人の考えを知ること大切だということを学ぶことができました。こういったことを今後の学習にも生かして行きたいと思います。